

第2回環境と科学技術に関する国際会議（ウランバートル）の報告

ERINA 調査研究部主任研究員
エンクバヤル・シャクダル

2019年6月14日、15日にウランバートルホリディンホテルで、第2回環境と科学技術に関する国際会議（EST）が開催された。この会議は隔年開催で、環境分野の課題と社会経済や地域発展の分野における科学的成果について議論する場である。会議は、モンゴル科学アカデミー（MAS）、MAS地理学・地生態学研究所（IGG）の主催であり、今年の会議は、モンゴル文化教育スポーツ担当相、環境・観光担当相とMERITプロジェクト¹、ヘルムホルツ環境研究センター、UFZリサーチ²とフューチャーアースの共同で開催された。このフューチャーアースとは、地球規模の「フューチャーアースプログラム」の研究拠点とし

開会式にて



（出所）参加者撮影³

¹ MERIT プロジェクトはモンゴルにおける社会・生活の改善を目的として、持続可能な経済と社会発展に資する資源の管理を支援するプロジェクトである。プロジェクトは、カナダの非営利組織カナダエグゼクティブサービス機関（CESO）、とカナダ世界大学サービス（WUSC）の二つとの協力を通じて実行されている。MERIT はグローバルアフェアズカナダの出資による7年間のプロジェクトである。

² UFZリサーチは、ドイツ・ライプツィヒに本部を置く環境研究センターである。

³ 主催機関 IGG アディア・サルールザヤ研究員提供、以下の写真も同様。

ポスターセッション



(出所) 参加者撮影

フィールドツアー



(出所) 参加者撮影

て、MASの下部組織として立ち上げられた国際的な委員会である。今回の会議には200人以上の代表者が集まり、その中には10の国・国際機関の代表約70人が含まれる。

第2回ESTの目的は、議論や提案を通じて、気候変動、地球温暖化、そのほかの人為的な環境破壊がいかんして起こるのかについての共通認識を得ることである。2019年ESTは特に、自然環境に関する問題だけでなく、国連の持続可能な開発目標(SDGs)と統合的な社会経済の発展と地域協力に関する課題についても議論している。EST主催者は、環境破壊を最小限にとどめ、地球温暖化や経済活動の活発化、人口増大に伴い資源の不足が起こるなど地生態学的な脅威をもたらすような

気候変動に適応するための最善の方法が、資源使用を安全かつ持続可能な方法で行うこと、自然の保護と再生を促し、環境保護に資する先端技術を導入することであると強調する。会議でも、研究を基調とした方法論や技術について議論がなされた。

会議は全体セッションと、いくつかのサブセッションを擁する3つのメインセッションからなり、本年会議のメインセッションのテーマは、それぞれ「環境の研究動向と課題」、「環境保護と地域発展」、「環境におけるイノベーションと技術」であった。また、現地と海外の研究者によるポスターセッションも行われた。筆者は、「環境保護と地域発展」のメインセッションの中の「学際的・多角的な研究協力」のサブセッションでERINA

の研究成果を紹介した。研究報告の内容は、米中貿易戦争による世界、北東アジア経済へのインパクトについて、モンゴルの視点から考察したものである。

2019年のESTにおける議論の主要なメッセージを基に、主催者により会議の総括が行われ、参加者により承認された。また、IGG、中国科学院(CAS)西北生態環境資源研究院、CAS地理科学資源研究所と日本の国立環境研究所(NIES)により、モンゴルの共同環境リサーチステーションの設立合意書に署名がなされた。

会議の後6月15日と16日に参加者による自然体験を目的としたフィールドツアーがもたれた。

[英語原稿をERINAにて翻訳]